

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 6 日現在

機関番号：16201

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2012～2013

課題番号：24830056

研究課題名(和文) 企業家的キャリア戦略の研究：地域における女性の企業家活動とその課題

研究課題名(英文) Entrepreneurial career strategy: The study of women entrepreneurs in a regional city

研究代表者

松岡 久美 (Matsuoka, Kumi)

香川大学・経済学部・准教授

研究者番号：30325310

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,000,000円、(間接経費) 300,000円

研究成果の概要(和文)：企業家的キャリア戦略という観点から、地方都市で活動する女性企業家についての事例研究を行った。その結果、次のような発見事実を指摘することができる。ビジネスモデルの構築の際に、自身がマネジメント可能なビジネスの範囲や規模を意識している。ワークライフバランスの維持に困難を抱えることもあるが、それらへの対処策を講じるとともに、こうした困難をむしろ前向きに捉えている。企業家としてのキャリア構築の過程で、ロールモデルや助言者の重要性を認識している。それと同時に、自らもロールモデルとして振る舞おうとしている。今後は、これらの成果についてさらに詳細な検証を重ね、論文および学会報告として発表していく予定である。

研究成果の概要(英文)：This study investigates women entrepreneurs in local cities from the perspective of entrepreneurial career strategy. The findings are as follows: these entrepreneurs

(1) are aware of the size and scope of the business that they can control, (2) experience some work-family conflict and are anxious about that, but regard that unavoidable, (3) understand the importance of role models and mentors, and (4) are willing to serve as such for others.

研究分野：経営学

科研費の分科・細目：3710

キーワード：企業家 女性 キャリア 地域

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 学術的な背景

戦略的企業家活動研究とは、戦略経営に関する研究蓄積と企業家研究を結びつけ、企業の価値創造機能をより深く理解しようとする萌芽的研究である(Ireland, 2007)。しかし、主役となる潜在的企業家は、どのように多層的なレベルで利害関係者と連携し、事業創造に関与する過程のなかで、重要なキャリア開発上のボトルネックに直面しているのかについて焦点を絞った調査研究は、わが国では驚くほど少ない。

また、女性企業家の活動に関する研究も限られており、それらの研究は、女性企業家が経営する企業の業種や規模などに目が向けられることが多く、そのキャリア形成や活動実態に踏み込む研究は、限られているのが現状である。たとえば鹿住(2006)は、女性企業家の企業規模や事業拡大意欲に対する職業経験の影響についてのアンケート調査を実施し、管理職経験やプロジェクト管理経験年数が長いほど、経営する企業の資本金規模や従業員規模が大きくなる傾向を指摘している。しかしながら、企業家のキャリア開発上の課題や戦略的企業家活動とキャリアとの相互関係については、議論が不十分な点が残されている。

### (2) 社会的・実践的な背景

現在、わが国では、蓄積された地域的な資源や知識は豊富に存在する一方で、企業家活動のレベルは他国と比べると低水準にあると言わざるを得ない。こうした中で、近年、女性企業家の活動に注目が集まっている。彼女らの中には、女性ならではの経験や視点を生かして企業家活動に取り組み活躍する者も多い。

産業活性化を目的として、また、女性のキャリア形成上での選択肢の1つとして、企業家活動の促進につながるよう、補助金や助成金等の金銭的な支援だけでなく、女性企業家のロールモデルの提示や、女性企業家同士の交流・学習の機会を設けるなど、様々な活動が公的機関や企業家団体を中心にして実施されている。

こうした中では、男性の企業家の場合と異なり、ビジネスモデルや資金調達といったビジネス活動上での課題だけでなく、出産・育児・介護等の企業家個人のワークライフバランスの維持にかかわる課題や、キャリア形成上での課題が論点となることが多い。

女性企業家とひとくくりに言っても、活動する業種や企業規模、企業家になるに至った経緯(企業家的入口)は様々であり、それらの要因が彼女らの活動上の課題に与える影響も大きいと考えられる。

このような背景から、本研究によって、企業家活動のキャリア戦略の課題を明らかにすることは、学術的にもまた実践的にも大きな意義があると考えられる。

## 2. 研究の目的

前述のような背景をふまえ、本研究では、戦略的企業家活動論の枠組みに、これまで不十分であったキャリア論の知見を加えたアプローチで分析を行うことにより、企業家的なキャリア戦略という観点から、地域(地方都市)における女性企業家の活動の現状と課題を明らかにすることを目的とする。

戦略的企業家活動研究は、まだ萌芽的段階にあり、キャリアや状況的学習からの検討は十分ではない(Mitchell & Shepherd, 2010)ため、本研究では、まず、既存研究における論点の整理を行い、企業家自身の企業家学習と役割の変化(入口・状況的学習・戦略的パートナー構築・出口)における課題にかかわるフレームワークの構築を行う。次に、地方都市における女性企業家の企業家活動展開についての事例研究を行うことにより、女性企業家活動の特徴を捉えていく。

## 3. 研究の方法

本研究では、地域における女性企業家の活動を捉えるため、関連する既存研究についての理論的な検討に加え、事例研究という手法を用いて実証研究を行った。

事例研究においては、公表されているデータの収集および関係者へのインタビュー調査を実施し、企業家活動のキャリア戦略に関する論点の整理を行った。当初は、アンケート調査による課題の探索を模索していたが、理論的検討に時間を要したことと、より深く現象と向き合うために、事例研究の積み重ねにより比較分析を行う方向で研究計画の修正をはかった。

また、地方都市での女性企業家の活動を研究対象としたため、地方都市特有の要素を探るため、農山村あるいは大都市圏における企業家、あるいは男性の企業家の活動概要との比較検討を行うために研究会の開催や研究会への参加、関係研究者からの知識提供を受けた。

## 4. 研究成果

企業家的キャリア戦略という観点から、地方都市で活動する女性企業家についての事例研究を行った。ひとくくりに女性企業家と言っても、事業内容、経験、ライフステージなどの組み合わせは、多様に存在するため、一般化した仮説を提示することは困難であるが、本研究の現時点での到達点として、以下のような発見事実を指摘することができる。

- ・ビジネスモデルの構築・修正の際に、自身がマネジメント可能なビジネスの範囲や規模を意識している。これは、ビジネスの「小回りの良さ」を意識してのことであるが、マネジメントにかかわる過度な不確実性の解消という事業戦略的な意味あいと

同時に、デザインされた/突発的に発生するであろう企業家キャリア上での出口への対応をスムーズに行えるように意識したものであるともいえる。

- ・仕事においては創業時、生活においては育児期等において、ワークライフのバランスを一定程度、犠牲にせざるを得ない局面がある。ライフ側では、家族や友人の理解や協力、外部のサービスの利用等により、ワーク側では事業内容や仕事スタイルの調整により対応している。
- ・しかしながら、それらによりすべての問題が解消されるわけではない。むしろ、それらを犠牲と捉えるのではなく、不可避、あるいは、当たり前、さらにはより前向きに捉える姿勢がビジネスを継続する上で重要となっている。また、自らが健康であったことがそうした局面を乗り切る上で、とても幸いであったと語る企業家が多かった。
- ・企業家としてのキャリア構築の過程で、ロールモデルやメンター（助言者）の重要性が認識されている。ロールモデルやメンターは、親族等の身近な存在の場合もあれば、前職での上司や、セミナー等での交流により知り合った人物である場合もある。
- ・ロールモデルやメンターの存在が重要であると認識すればこそ、彼女たち自身が後進に対するロールモデルやメンターとしての役割を果たそうとする傾向にある。また、女性の仕事復帰の支援や後進の経営者の育成などにおいて貢献していこうとする意欲を有している。

企業家としての職務とキャリア発達上での課題を重ね合わせて考えることは、企業家活動を捉える上で、あまり一般的な見方ではない。しかし、本研究からは、企業家としてのキャリアの在り方は、事業戦略の展開の在り方にも大きく影響を及ぼしていることが指摘できる。キャリアと事業の在り方の相互依存性については、本研究と並行して実施している企業家研究者の研究でも確認されていることであるが、本研究での理論的な検討の一部は、当該研究論文の作成においても役立てることができた。

また、企業家活動を行う上で直面するビジネス上、また、ワークライフバランス上の課題は、課題そのものもさることながら、企業家自身の課題の認識の仕方が、ビジネスの継続においては影響があると考えられる。この点については、企業家のパーソナリティとも関連付けて、さらに考察を深める必要があると考えられる。

本研究においては、ビジネスを行う上で、直接的な利害関係者だけでなく、ロールモデルやメンターが果たす役割が重要視されていることが明らかとなった。近年、女性経営者のロールモデルを提示していこうとする試みが各方面で行われているが、次世代の育

成という点から、そうした活動に一定の効果があると指摘できると同時に、新たな課題として、どのようなロールモデルの提示の仕方が有効であるのかについてより詳細に検証する必要があると指摘できる。

今後は、これらの成果についてさらに詳細な検証を重ね、論文および学会報告として発表していく予定である。

最後に、今回の研究においては、ビジネス上、キャリア形成上の双方における地域的な特徴を捉えることを意識していたが、結果的には、調査対象者が地方都市在住者であったという以上の共通点を見出すことは難しかった。これには、起業以前のキャリアにおいて得ていた資源やネットワークの影響、地域内・広域的といったビジネス展開の違いに基づく資源動員のパターンの違いといったものが影響していたと考えられる。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 1 件)

・山田仁一郎・松岡久美、企業家研究者の心理的オーナーシップ - 大学発ベンチャーにおける2つの出口 -、2014、組織科学、査読あり、vol.47.3、17-28 ページ

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等  
研究会の開催  
現代経営研究会（香川大学経済学部）  
2013.9.30 第13回 ワークショップ  
報告者：大阪市立大学大学院創造都市研究

科准教授 松永桂子氏  
報告テーマ：「超高齢社会と地域の自立  
創造的地域社会のあり方」

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松岡久美 (MATSUOKA, Kumi)

香川大学・経済学部・准教授

研究者番号：30325310

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：